

した。リレーの練習のことを思い出したからです。

「みんなが一位をめざしてがんばろうと言ったとき、ぼくもさんせいしたのに、ぼくは——。このままではぼくは——。運動会まであと十日あるな。よし明日からまたリレーの練習をつづけるぞ。」

とつぶやくと、

「ひろし、どうかしたのか。」

と、兄が心配そうにたずねました。

「ううん。べつに。さあ、兄ちゃん、また、星を見せてね。」

と言って、ぼくは天体ぼうえんきようをのぞきこみました。

夜空では、ぼくの決心をはげま

してくれているかのように、いくつもの星がきらきらとかがやいていました。

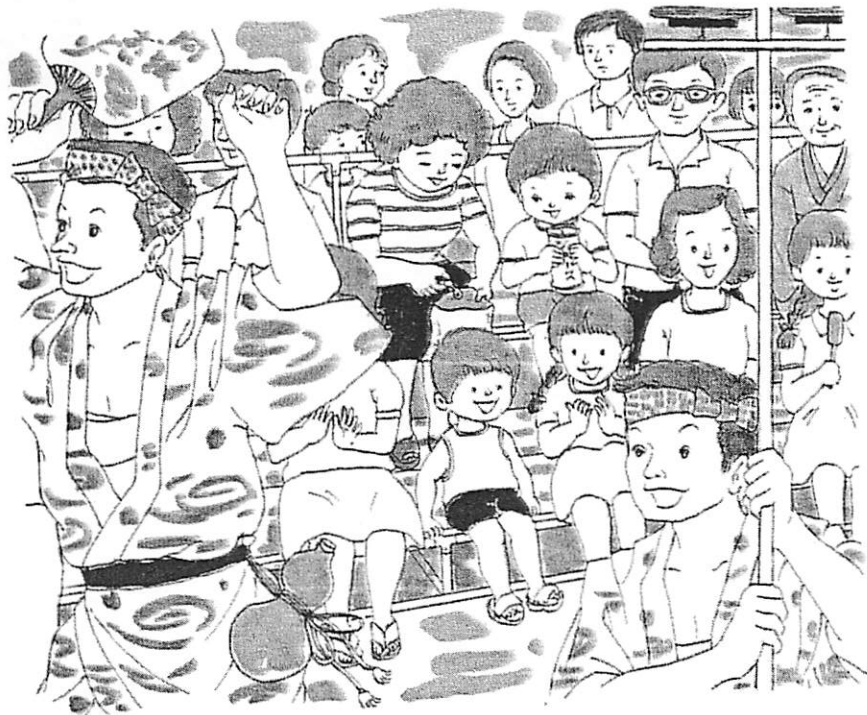


13 こんな徳島にしたい

八月十四日、待ちに待った阿波おどりを見に行きました。はじめ、徳島駅から両国通りへ行って見ました。さじきせきは、すでに人でいっぱいでした。さじきが高すぎて、後ろで立っているとても見えません。だから、鉄のぼうにつかまって、せのびして、やっと、おどりが見えました。

そんなに見ていると、前のさじきせきにすわっていたおばさんが、

「このけんをあげるけん、交通公園へ行って見な。」



と言って、二まいのさじきけんをくれました。

わたしたちは、少しえんりよしましたが、その人が、
「もういらないから。」

と言ったので、そのけんをもらいました。

わたしのお母^{かあ}さんが、かんジュースを買ってきて、

「ほんの気持^{きもち}ちです。子どもさんにあげて。」

と言って、四、五さいの男の子にわたしました。

「そんなん、よろしいのに、すみませんな。」

「こちらこそ、本当にありがとうございます。」

男の子は、のどがかわいていたのか、すぐ、

「ジュースが飲^のみたい。」

と言いました。男の子は、ピツ
と、かんジュースのふたを取^と
と、それを下にぽいとすてまし
た。すると、おばさんは、

「そこへほつたらいかん。ごみ
は、ここへ入れな。」

と言って、自分でそのふたをひ
ろうと、持っていたふくろの中
へ入れました。

「そのかんも、飲んですんだら、
ここへ入れなよ。」

と、言い聞かせています。

わたしは、お母さんに、

「えらい人やな。あのおばさん。」

と、感心かんしんして言いました。

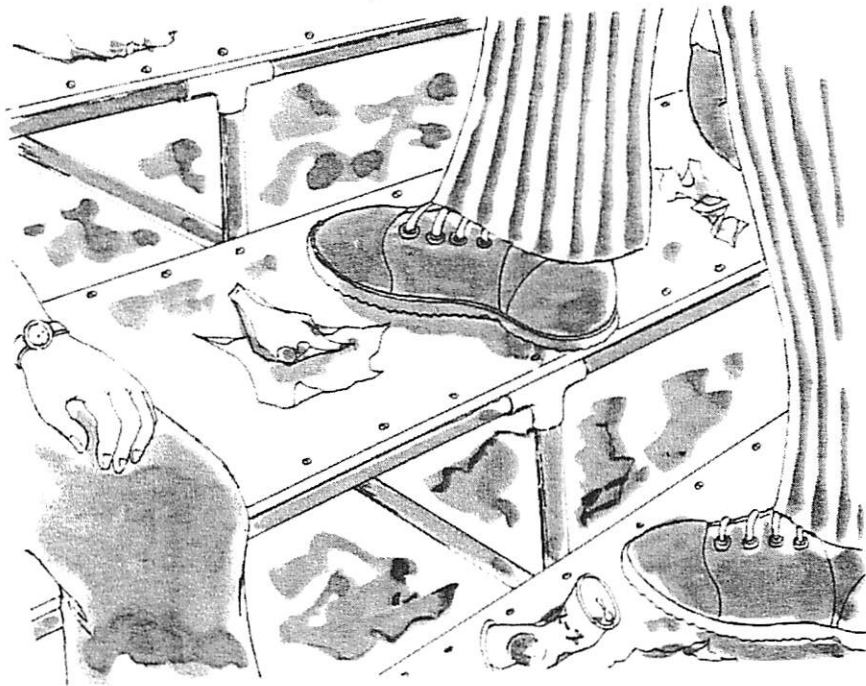
そして、交通公園へ急いそぎました。わたしは、けんをもらったので、「もう、いすにすわって見られるんだ。」と思うと、とてもうれしい気持ちでした。

とちゅう、ふと、道ばたを見ると、ジュースのあきかんやたこやきの入れ物などが、いっぱい落おちていました。さじきせきへ行っても、いすの下をのぞいてみると、ごみがたくさん落ちていました。わたしの足の下でも、あきかんがごろごろしていました。

すわるところも、土でざらざらして、気持ち悪わるくなりました。

けれども、おどりは楽しいので、いっしょうけんめい見ていました。しばらくすると、さじきせきへ上がる人や下りる人が平気で人がすわるところをどろぐつでふんで行きます。

とうとう、となりにいたおじさんが、一人の男の人に、



「ここは、すわるところだから、くつでふまないでください。」
と注意ちゅういすると、

「なんな、文句もんくあるんか、こら、出てこい。」
と、すごいけんまくで、けんかをしかけてきました。

わたしは、なんてひどい人だろうと思いました。言葉ことばづかいから、徳島の人だとわかりました。そばに、県外けんがい客きやくも大ぜいいます。注意をした人は、

「あんなん、徳島のはじじゃ。」

と言いました。わたしも、そうだと思いました。そして、このおじさんは、ゆう気のあるえらい人だなと思いました。

さつき、さじきけんをくれた親切なおばさん。人をよろこばせるおばさん。ごみをきちんとかくろに入れるおばさん。こんなおばさんの心が、これから徳島じゅう中に広がっていくと、どんなにいい徳島になるでしょう。わたしも、このおばさんを見習みならって、みんなに親切にしたり、ちりをどこにでもすてないようにしたりしたいと思います。

それにくらべて、ごみを平気ですてる人、さじきせきをくつでふんでいく人は、人の楽しい気持ちをこわす人です。こんな人は、一人でも少なくなっしてほしいと思います。

13 こんな徳島にしたい

4-1) 約束や社会のきまりを守り、公德心をもつ。(規則尊重, 公德心)

1) 主題設定の理由

〈ねらいとする価値について〉

公德心という言葉は古くから使われてきたが、公共心という用語はそれほど一般的ではない。結局、両者は同じ意味だと思われるが、しいて分けるならば、「公共心」は即物的であり、「公德心」はそれを支える心情ということができらるであろう。たとえば、公園を汚さない、公共物を大切にするのが「公共心」で、その「公共心」を押しだす倫理的な理念が「公德心」である。

そこで、この学年において、学校・公園・道路等の公共物を大切に使うことを徹底して指導したい。そして、学年が進むにつれて公德心を高め、集団生活の基本を確かなものとしていきたい。

〈子どもの実態について〉

子どもは、自分の物と他人の物、とくにみんなが使う物は大切に扱わなければならないとか、公共物を共用しようとかいう意識はかなり芽ばえている。

一方、意識に実際の道徳的な行為が伴わないという一面もある。

「学校のボールの後始末をきちんとする。」「清掃用具をていねいに使う。」「公園のベンチを正しく使う。」などという公共物を大切にすることをできにくい。

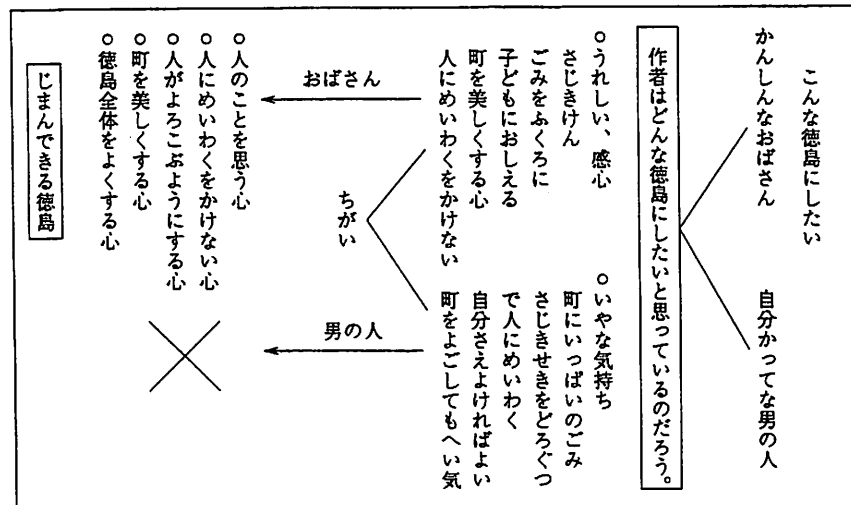
〈資料について〉

ここでは、主人公(作者)が直接、道徳的是非を問われる行為をなしてはいない。作者が見聞した道徳的是非を問う行為が二つ対照的に描かれている。一つは、阿波踊りさじき券をくれ、ごみを袋にちゃんと始末しているおばさんであり、二つには、ごみがいっぱい散らかっている町の様子やさじき席をどろぐつで平気でふんで行く男の人である。公衆の場で他人の気持ちや迷惑を思いやり、町の美化につとめる心情と、それとは逆の心情を対比して考えさせ、公共心を高めたい。

2) ねらい

公共の場や物を大切にし、進んでみんなのためにつくそうとする態度を養う。

3) 板書



3) 展開

学 習 活 動	支 援 上 の 留 意 点
(1) 人がたくさん集まる公園や遊園地では、どんなことに気をつけなければならないか話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ねらいとする価値にかかわる意識がもてるようにする。
(2) 資料を読んで、作者のねがいについて話し合う。 ① 「こんな徳島にしたい」を読んで、思ったことを話してください。 ・ さじき券をもらった作者は、とてもうれしかっただろう。 ・ どろぐつでふんで行くのは腹が立つ。 ② おばさんと男の人を比べてみましょう。どんな違いがあるでしょう。 ・ おばさんは、ごみ袋に入れたり、子どもに後始末の仕方を教えたりしている。 ・ 町を美しくし、人のことを考えてあげる心がある。 ・ 男の人は、どろぐつでさじき席をふんで平気だ。 ・ 人に迷惑をかけても平気な人だ。 ③ 作者は、どんな考え方でしょう。 ・ 注意した人と同じ考えだ。 ・ 注意する勇気まではないけれど、人のために迷惑をかけたくない気持ちだ。 ・ 美しい町にしたい。そのためには、一人一人が町をよくしたいという気持ちをもつことが大切だ。 ・ 思いやりの心をもった人がいっぱいいる徳島にしたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 思ったことを話し合うことにより、問題意識がもてるようにする。 ・ 二人の心を対比しながら推測させ、ねらいとする価値にせまることができるようにする。 ・ 公共心の重要性を注意した人と絡ませながらとらえることができるようにする。
(3) 自分たちの生活について深く見つめる。 ○ 自分自身が公共施設を利用したとき、進んでみんなのために尽くそうとしたことはありませんか。 ・ 遠足のとき、ごみ袋を持って人のごみもきちんと始末できた。 ・ 公園で友達といっしょに遊んでいたが、空きかんがたくさん落ちていたので拾った。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進んで行動したあとのすがすがしさや充実感をとらえることができるようにする。
(4) 教師の話聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師の経験談や感想を加えて話すことにより、実践意欲が高められるようにする。 (心のノート活用 P68-69)